

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 各学校行事(樓名登山・体育大会など)に満足している生徒が80%以上である。	・樓名登山、体育大会等の伝統行事への取り組みをとおして人間の成長を図る。	A	A	A	本校伝統の樓名登山に加えて、本年度より体育大会を2日間実施に変更し、生徒が活躍できる機会を増やすことができた。アンケート結果でも、生徒、保護者、職員共に高い評価を付けている。来年度は各行事の内容をより高めたいと考えている。	・学習環境を自主的に整えている生徒が97%はすごいと思う。計画的に実施された補習の満足度も高い、ただ先生方の負担が過重にならないよう気を付けてほしい。 ・生徒会活動、部活動が充実していることがよくわかる。 ・体育大会を2日間開催したことは画期的であると思う。小中学校では同様の行事は縮小傾向にあり、高校らしさがあって良いと思う。 ・教員の働き方改革が求められる中、早朝や休日の指導は大変素晴らしいと思う。
		② 各種補習や延長学習等に満足している生徒が80%以上である。	・生徒のニーズや実態を把握し、それに応じた補習を実施する。	A	A	A	早朝補習、土曜補習、長期休業中補習などを計画的に実施できた。生徒の89%、保護者の85%が満足している。次年度も先生方に協力してもらいながら、可能な範囲で実施したい。	
		③ 自分の学校が楽しいと感じている生徒が、80%以上である。	・生徒たちがエージェンシーを育めるよう諸活動の内容や運営の仕方を工夫する。 ・日頃からの生徒たちへの声かけ等を通して、自己有用感や帰属意識を高めさせる。	A	A	A	今までの活動を大きく変えるのではなく、ちょっとした工夫や考え方を変える中で生徒が主体的かつ自発的に行動できる場面を増やすことができた。安心して安全に学校生活を送れる環境作りを継続して行っていく。	
	2 環境美化に心がかり、清掃活動を積極的にこなしていますか。	④ 清掃活動と環境美化に積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	・身の回りの整理整頓を心がけさせることで環境美化の意識を育て、全員清掃を徹底する。	A	A	A	97%の生徒が清掃を積極的に行っていると回答した。今後も美化活動について指導を継続し、学習環境を整えていきたい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施し、学習に对する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上である。	・授業アンケート等をもとに、授業の質的向上に努める。 ・少人数授業等により学力の定着と個に応じた指導を行う。	A	B	B	道徳教育推進の観点から、各教科において生徒に選択させる場面を増やす授業展開の実施に取り組んだ。アンケート結果を見ると、昨年同様保護者からの評価がやや低くなっている。授業の質の向上は終わることはない課題と捉え、来年度も同様の課題提示をすることで職員の意識向上を促したい。	・「習熟度別授業に達成感・満足感を感じているか」の保護者評価が低いことに対して、原因を追及し、評価が上がるよう工夫してほしい。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 1日当たりの平均学習時間が学年の数+1時間(全学年の平均として3時間)以上である。	・各学期で家庭学習時間調査を実施し、面談等で有効に活用する。	B	B	B	各学期始めに学習時間調査を実施し、その結果を各学年で活用できた。生徒の57%が学年の数+1時間を達成できていないため、改善できるよう指導していきたい。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 生徒の問題行動及び不登校に対して生徒指導部と学年で連携を図り、迅速な対応をする。	・全職員での統一した指導と情報共有の徹底を図る。小さな変化を見逃さずに、組織的な対応とケアをスピード感を持って行う。	A	A	A	初期対応を心掛け、スピード感をもって迅速に組織的に対応することができた。外部機関とも連携を図りながら、不登校生徒を少しでも減らせるよう更なる工夫が必要である。	・不登校生徒を少しでも減らせるよう工夫を検討して行ってほしい。 ・服装の乱れは、心の乱れと言います。生徒一人ひとりの気持ちに寄り添った対応を今後お願いしたい。 ・保健室利用の中で心の問題を抱える生徒が多いようなので、今後とも生徒の悩みを解決できるよう努めてほしい。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にこなしていますか。	⑧ いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいると理解している生徒が80%以上である。	・いじめの定義を丁寧に説明し、一人ひとりがいじめに対するアンテナを高くする。また、生徒たちが気軽に相談しやすい雰囲気づくりを行い、未然防止および早期発見に努める。	A	A	A	いじめに対する教職員での共通認識を徹底し、情報共有を密に組織的に対応できている。些細な事でも相談してくれる生徒が増えてきている。SOSの出し方や周りにも目を向けられよう継続して未然防止に努めていく。	
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 家庭と連携をとりながら遅刻を減らし、1日の平均遅刻者は全校生徒の0.5%以下である。	・基本的生活習慣の確立を図る。学年での情報共有を徹底させて、保護者への連絡を密にする。必要があれば面談等を実施して改善する。また、学期ごとに数値を算出し、共有する。	B	A	A	多くの生徒が規則正しい生活を送ることができている。欠席・遅刻が重なってしまう生徒に対しては家庭との連絡を密に情報共有を図り、保護者にも協力いただいている。ただ、2学期終了時点で0.7%であるため、目標値に近づけるよう指導していく。	
		⑩ 服装やマナーに気を付け、挨拶を積極的に行っている生徒が90%以上である。	・年間のあいさつ運動を通して、あいさつへの意識を学校全体として高める。校内のみならず、校外でも渋川生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成を図る。	B	A	B	挨拶の意識が生徒・保護者と教職員で差があるように感じる。服装やルールやマナーについては、渋川生としての自覚と誇りを持って行動できている。挨拶に関しては、まだまだ手を入れていかなければいけないと強く感じる。	
		⑪ 生徒会活動や部活動に参加している生徒の満足感・充実感が80%以上である。	・生徒会活動や部活動で生徒に委ねる場面を増やすと共に、学校の中心となる生徒を育てる。 ・生徒の主体的な活動内容を充実させ、活性化を図る。	A	A	A	生徒に関しては約95%が満足している。各部活動の大会活動を共有するボードを生徒会が作成するなど、所属している部活だけでなく学校全体で頑張ろうという雰囲気を取り組んでいる。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑫ 大学説明会や進路講演会などの進路行事に満足している生徒が80%以上である。	・最新の大学入試情報を提供できるよう、大学説明会やPTA学年部会での進路講演会などを計画的に実施する。	A	A	A	計画していた進路講演会等はすべて実施することができた。生徒の95%、保護者の89%が進路行事に満足していると答えていると答えた。次年度も生徒の進路意識を高められるような講演会を計画したい。	・今後進路について主体的に取り組める情報や見学会を多く設定して行ってほしい。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 進路実現に向けて積極的に取り組む生徒が80%以上である。	・「LHR」や「総合的な探究の時間」などで進路学習を計画的に取り入れ、積極的に取り組ませる。	A	A	A	進路情報誌の配付や進路講演会の実施を適切な時期に実施することができた。生徒の86%、保護者の82%が進路実現に向け取り組んでいると答えた。次年度も進路学習を計画的に実施し、生徒が進路実現に主体的に取り組む場面を多く設定したい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ PTA総会・公開授業・学年部会へ積極的に参加しようとしている保護者が80%以上である。	・各行事に関する案内文書や資料をオクレンジャーを活用しながら、保護者へ情報が確実に伝わるようにするとともに各行事への参加についても生徒を通じて積極的な参加を呼びかける。	B	A	B	オクレンジャーを活用しての通知方法については、確実に保護者へ案内・通知・資料が届き、さらに回答を要するものも短期間で集約できるようになった。参加状況も良好である。今後も活用の範囲を広げていきたい。	・連絡等はオクレンジャーの活用で適切に対応してくれていると思う。 ・HPでの生徒の活躍の記事、学年通信など興味深く拝見している。
		⑮ 本校ホームページの掲載内容や更新頻度に関して、生徒及び保護者の80%以上が満足している。	・進路指導、学習に関する事柄を中心に、生徒、保護者にとって有益な情報、また、生徒、保護者の関心が高いと考えられる学校生活の様子などを、速報性と正確さに配慮しながら提供する。	A	A	A	学校行事や部活動の報告は、原則イベント後3日以内でのHP更新を実施することができた。アンケート結果においても生徒、保護者、職員から高い評価を得ている。来年度も引き続きタイムリーな掲載と内容の分かりやすさを追求していきたい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ 生徒の理解を深め、授業の効率化を促進するために、全職員がICT機器を活用した授業が実践している。	・ICTを効果的に活用する授業実践のため、職員間の情報交換を積極的に行う機会を作る。 ・授業公開週間を設け、他教科の授業参観をとおして、学校全体の授業改善が活性化されるようにする。	A	A	A	生徒の91%、保護者の90%、職員の88%から実践できているとの回答が得られた。特に第1回のアンケートと比較して職員の数値が上がったことから、授業実践での活用度合いが上がったと考えられる。ICT技術は日々の進歩が早く、常に自己研鑽しなければ遅れてしまうため、来年度も職員同士でスキルを共有できるような環境作りをしたいと考えている。	・授業実践での活動度合いが上がっていることは先生の努力のたまものと思う。 ・ICT機器の活用についてさらに促進できるように、職員研修など適切に実施して行ってほしい。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICTを活用した通知やアンケートの実施に、生徒及び保護者の80%以上が満足している。	・オクレンジャー、グーグルワークスペースを活用した週番連絡や欠席連絡等を用いて、効率的で正確な情報伝達を行う。 ・グーグル・フォームを用いて、集計作業の効率化を図る。	A	A	A	グーグルワークスペースを活用した週番連絡は定着している。欠席連絡に関しては、ログインが必要な点に不便を感じる保護者もいるが、セキュリティの問題もあるため理解をしてもらうように継続目標としたい。	
Ⅶ 学校施設・設備の安全管理に努めていますか。	13 生徒の安全確保の観点から施設・設備を管理していますか。	⑱ 日常並びに定期的な安全点検・環境衛生点検を徹底し、不注意による事故は0件である。	・全職員による点検結果を集約し、不適切箇所の速やかな改善を行う。	A	A	A	月毎の清掃監督による点検の他、係による点検を実施した。改善箇所については速やかに修繕することができた。次年度も適切に対応したい。	・生徒の危機管理意識が高いことに安心している。
		⑲ 避難訓練の実施により、日頃から危機管理意識を持って学校生活を送っている生徒が80%以上いる。	・職員が適切な初期態勢をとることで、生徒の安全や速やかな避難を確保する。	A	A	A	96%の生徒が日頃から危機管理意識をもって生活していると回答している。避難訓練では職員の役割を見直したことから、職員全体で適切に生徒を誘導することができた。次年度も危機管理について職員で共有し、安全対策に努めたい。	